

企業×福祉の意見交換会 開催報告

令和4年1月13日

去る1月13日「企業×福祉の意見交換会」を開催しました。今回の内容は、就職者を送り出す福祉側、就職者を受け入れる企業側双方からの希望で実現しました。福祉側は就労を希望している利用者がいないと感じている現状があり、一方企業側からは人手不足から雇用を進めていきたいという声が聞かれています。障がい者雇用に対するお互いの考えや視点を共有する場を設けることで、さらに具体的な就労・雇用への取り組みにつながることを目的に行いました。

「雇用促進・就労定着プロジェクトの取り組み」

帯広ガス株式会社 総務部

次長 広瀬 正志 氏

発足から3年目。当初は自社での雇用者の獲得や定着を目的に会の活動を行っていましたが、障がいのある方と直接触れ合っ意見や意見を聴いたり、地域事情を知る中で、活動の目的が「地域貢献」へと変化してきたとのこと。事業所見学で感じた就労支援の課題からヒントを得た「仕事の魅力発見フェス」への思いから、「社会の中で生かされることで企業は成長する」といったプロジェクトの目指す社会的責任の意義まで熱くお伝えいただきました。



「就労移行支援事業所連絡会の取り組み」

障がい福祉サービス事業所ちあファクトリー
サービス管理責任者

今本 貴子 氏

令和2年11月から就労移行支援事業所の有志で連絡会活動を開始しました。月1回ペースで会を継続し、その中で支援の困り事や悩みに対する助言やヒントを得られたといいます。今年度からは新たに事業所見学会を実施し、支援のノウハウを伝え合い、自事業所とは異なる就労支援の方法を知ったことで日々の支援に活かされているそうです。今後は障がい者雇用の促進を目指し、障がい者雇用に取り組む企業へ働きかけをしたいという考えがあるようです。そのため働きかけのヒントや企業が就労移行支援に求めていることを知るため、今回の意見交換の場を希望されたとのこと。



パネルディスカッション

実習の目的と受け入れ体制に同調意見

職場実習に対して、「事業所内の活動ではワンパターンになり、利用されている方に“働く”ことを伝える限界がある」「社会経験や環境の変化に対する適応力を見たい」と語った福祉側に対して、企業側からも「体験は大歓迎。色々な職種を体験してほしい」「お互いを知るために、まずは第一歩を！」という意見が聞かれました。ただ、プロジェクト参加企業でも「以前は雇用を前提とした実習が多かった」という声もあり、障がい者雇用に取り組む過程で考え方や受け入れ体制に変化があったようです。

どこまで働く準備が出来れば就職活動に移れるか・・・

「福祉サービスからは『〇〇ができないと就職が難しい』ということを知ることがあるが、様々な補完方法があり、全てができないと就職が叶わないとは一概に判断できないと感じる」という企業側からの話もありました。福祉側から「どの段階で（就職へ）送り出して良いか迷う」「送り出す側としては迷惑をかけてはいけない思いがある」という発言があり、日々就労支援を行う福祉側でも、就職活動に移る判断に迷いがあることが分かりました。それに対して企業側からは「福祉と企業では働けるかどうかの感じ方も違う」「就労経験の有無や通所の長さだけでは判断できない点もあるため相談してほしい」と福祉側の背中を押すような言葉が聞かれました。

長く働いてもらうために

雇用時の着眼点に関して、まずは「就職者ご本人の意欲と積極性があるか」がベースになるという意見に加え、就職後に想定される困りごとや実際に働いている様子が共有されること、ご本人と企業の指導者が相談できる窓口を明確に設定する等の支援体制の構築の大切さが語られました。

障がい者雇用が活発になるために必要なこと

福祉側からは、企業と福祉が意見を交え、お互いを知り合う場等による連携強化が挙げられました。今回のような企業側の考えを聞く機会がとても有意義であったようです。また、職場実習だけでなく、施設外就労を活用する提案がされ、そのメリットについても話されました。企業側からは、

体験や就職前提の実習だけではなく、働く前の慣らし運転の要素も含んだ実習があると良い等、より多様性のある職場実習の提案も出されました。さらに、送り出す側の「福祉」と働く側の「本人」、そして雇用する「企業」それぞれの覚悟が大切という熱い思いが語られました。「障がい者を特別視することなく、互いの違いを認め合えるように職場の理解を得たい」「福祉と企業は立場と役割は異なるが、双方の目標は1つ」という企業側の言葉で、今回の意見交換会は締めくくられました。

「障がい者の就労」に関わる、企業・福祉双方の意見をお聞きし、目指していることは「障がいのある方の充実した社会生活」と「誰もが仕事で活躍できる多様性のある地域作り」であると感じました。そして、今回の意見交換会で大切なのは、お互いの関係性であると改めて思いました。就職は採用されることがゴールではなく働き続けるためのスタートです。仕事を長く続けられるためにも、就職後に予想される課題までも引き受けて雇用する企業の判断と、ご本人への配慮の要素をしっかり伝えられる福祉の訓練機関としての役割の大切さを確認できる話合いでした。研修後は参加された皆さんが名刺交換をしている様子も見受けられ、今回の意見交換会が企業と福祉の関係性を広げるきっかけになったと感じています。今後も地域の障がい者雇用の為に、互いの役割を尊重しながらも高め合える関係性を作るための活動を続けてまいります。引き続きのご協力をお願いいたします。

